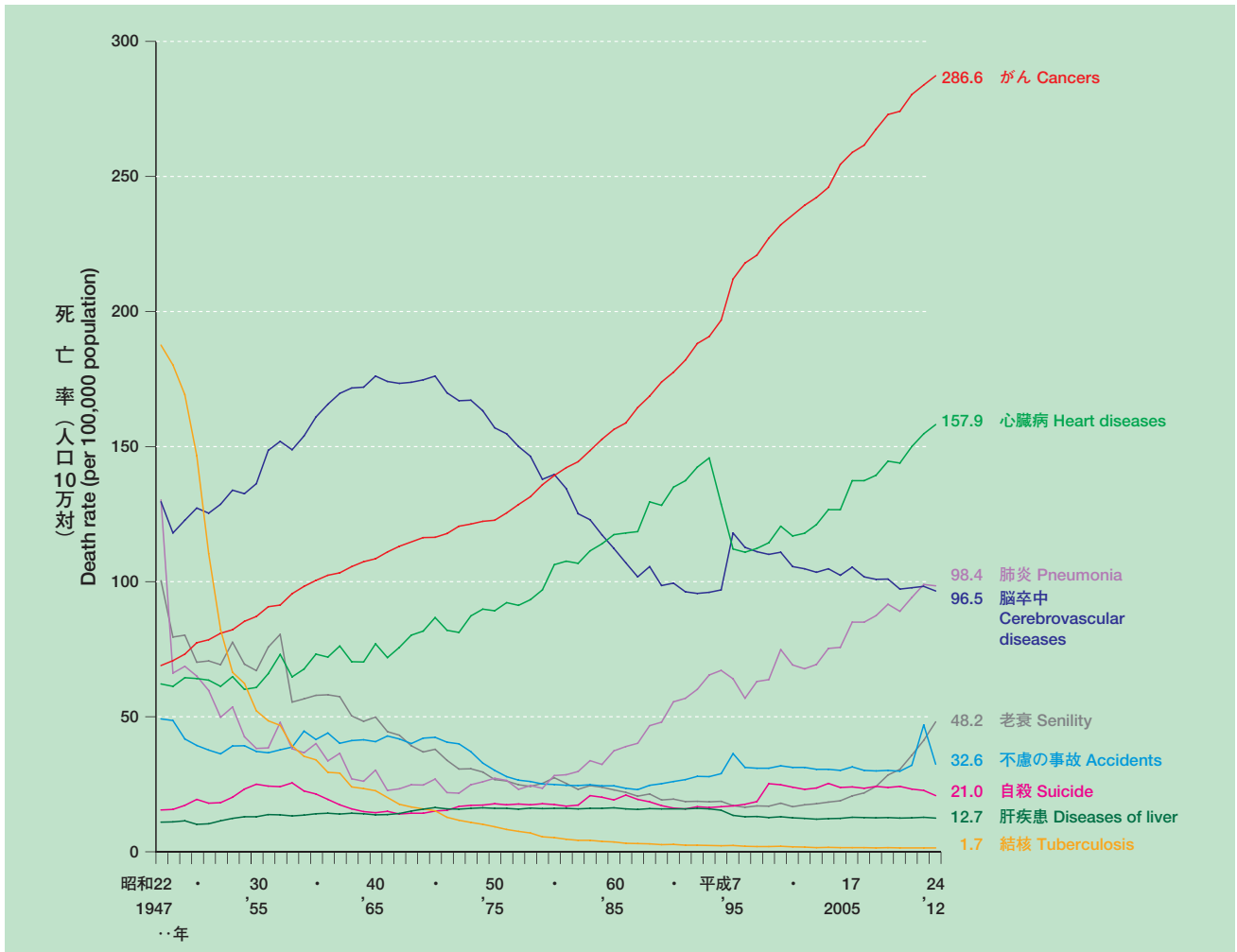


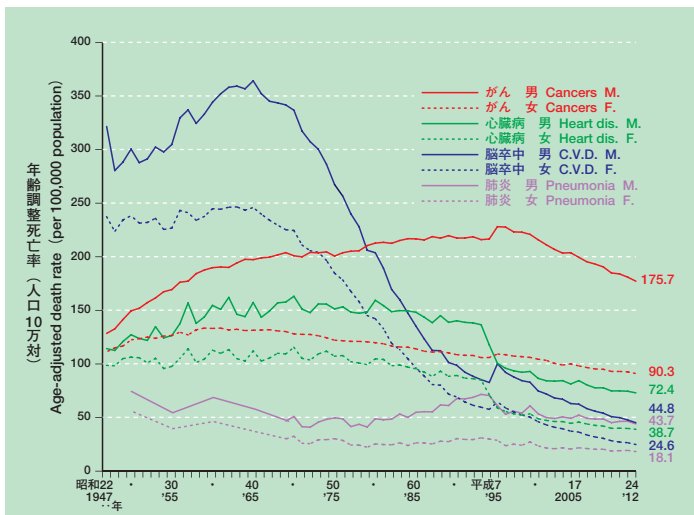
がんの死亡率は、上昇を続けている

主な死因別にみた死亡率の年次推移—昭和22～平成24年—  
Trends in death rates for leading causes of death, 1947—2012



主な死因別にみた性別年齢調整死亡率の年次推移  
—昭和22～平成24年—

Trends in age-adjusted death rates for leading causes by sex, 1947—2012



注：1) C.V.D.←Cerebrovascular diseases  
2) 年齢調整死亡率については、5頁、59頁を参照  
3) 肺炎については、昭和25～40年までは5年ごと、44年以降は各年のデータである。

- \*1 本書の場合の「がん」、「心臓病」、「脳卒中」は国際疾病傷害死因分類における「悪性新生物」、「心疾患(高血圧性を除く)」、「脳血管疾患」にあたる。
- \*2 平成6、7年の心臓病の低下は、新しい死亡診断書(死体検案書)(平成7年1月施行)における「死亡の死因欄には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください。」という注意書きの、事前周知の影響によるものと考えられる。
- \*3 平成7年の脳卒中の上昇の主な要因は、ICD-10(平成7年1月適用)による原死因選択ルールの明確化によるものと考えられる。

平成24年の主な死因別の死亡率(人口10万対)をみると、がん286.6、心臓病157.9、肺炎98.4、脳卒中96.5、老衰48.2などとなっている。年次推移をみると、がんは一貫して上昇を続け、昭和56年以降死因順位の第1位となっている。

心臓病は昭和60年に第2位となり、その後も上昇していたが、平成6、7年には急激に低下した。9年からは再び上昇傾向となっている。

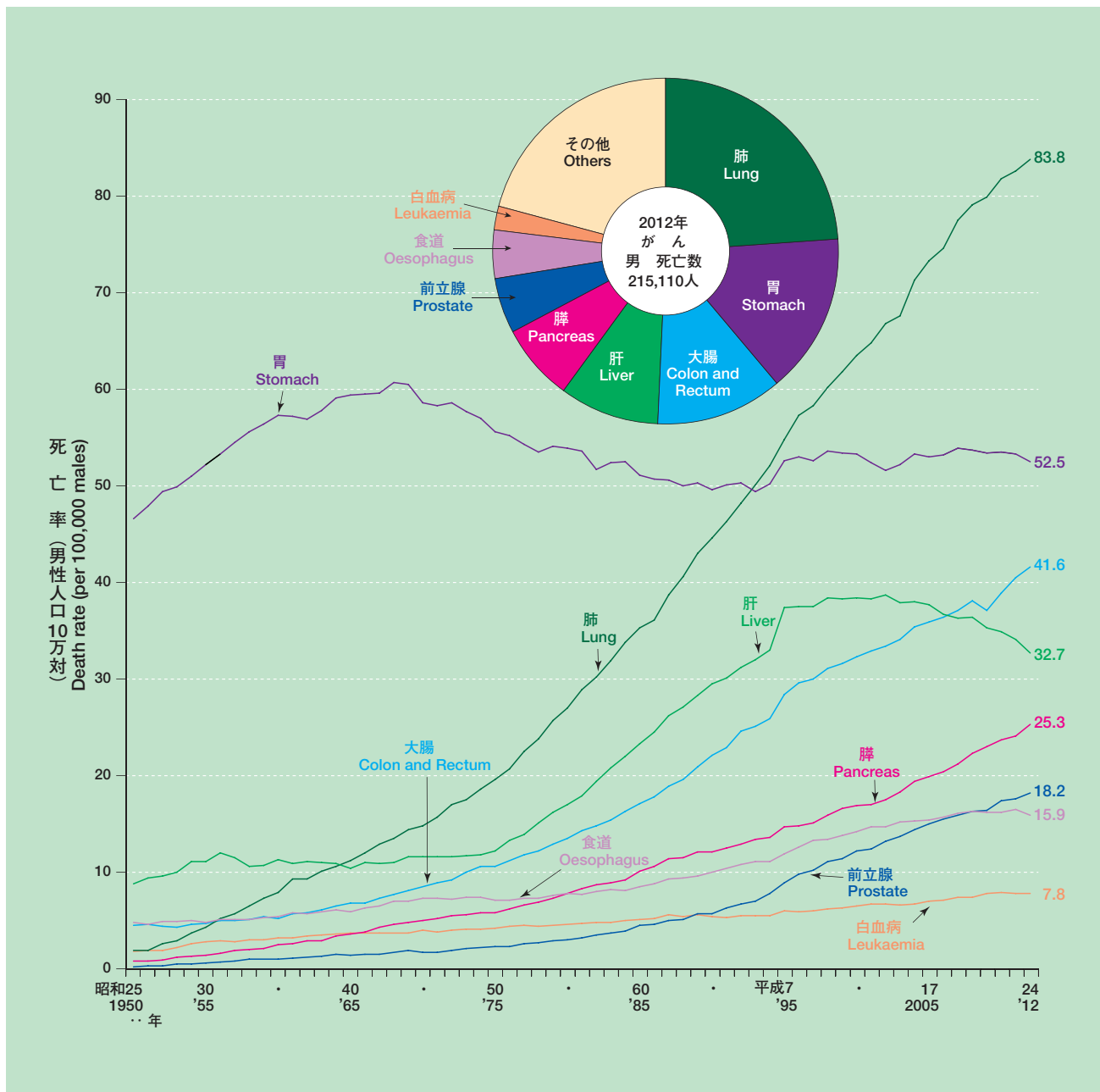
肺炎は昭和22年以降低下傾向であったが、48年以降は上昇傾向に転じ、平成23年には脳卒中を抜いて第3位となった。

脳卒中は昭和45年から低下、平成3年以降は横ばいで推移し、7年に急激に上昇したものの、その後は低下傾向となっている。

死亡の状況はその集団における人口の年齢構成に影響されるので、その年齢構成の差を取り除いて比較するための年齢調整死亡率で主な死因の年次推移をみると、近年は総じて低下傾向にある。

# 男は肺がんが第1位

部位別にみたがんの死亡率の年次推移，男—昭和25～平成24年—  
Trends in death rates for cancers by site, Male, 1950—2012



注：1) 大腸←結腸と直腸 S 状結腸移行部及び直腸（昭和40年まで直腸肛門部を含む。） Colon and Rectum←Colon and rectosigmoid junction and rectum  
2) 肝←肝及び肝内胆管（昭和32年まで胆のう及び肝外胆管を含む。） Liver←Liver and intrahepatic bile ducts  
3) 肺←気管、気管支及び肺 Lung←Trachea, bronchus and lung

平成24年の男のがんの死亡数は21万5110人、死亡率（男性人口10万対）は350.8である。

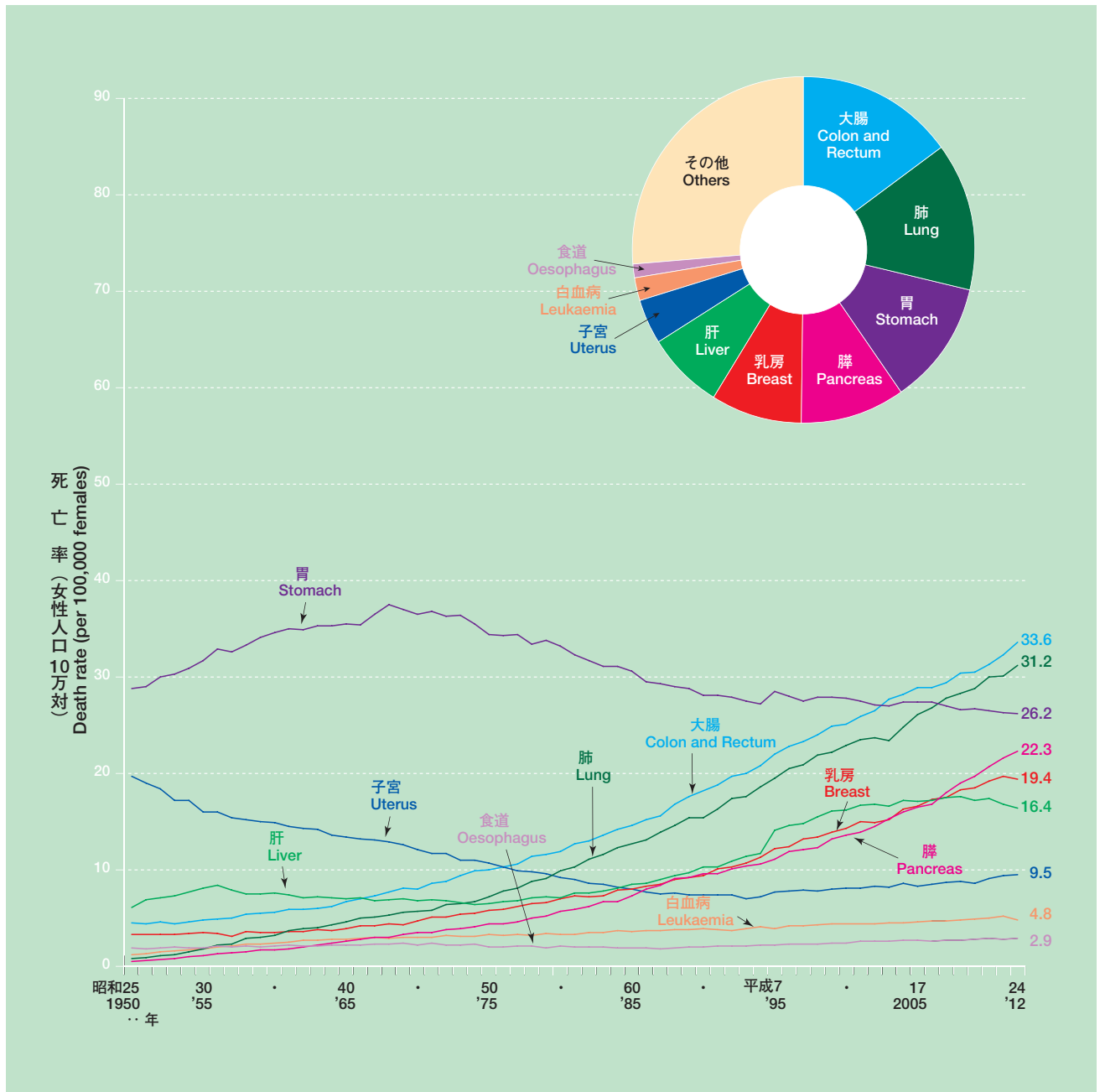
部位別に死亡率の年次推移をみると、肺がんは一貫して上昇を続けており、5年には胃がんを抜いて第1位となり、引き続き上昇している。

4年まで第1位であった胃がんは昭和43年をピークに低下傾向が続いていたが、平成6年から上昇傾向となり、近年は横ばいとなっている。

大腸がんは上昇を続け、19年に肝がんを抜き第3位となり、上昇傾向にある。その他の部位では、上昇傾向であった肝がんは、近年は横ばいから低下傾向で推移しているが、膵がん、前立腺がんは上昇傾向にある。

## 女は大腸がんが第1位

部位別にみたがんの死亡率の年次推移，女—昭和25～平成24年—  
Trends in death rates for cancers by site, Female, 1950—2012



注：平成6年以前の「子宮」は胎盤を含む。

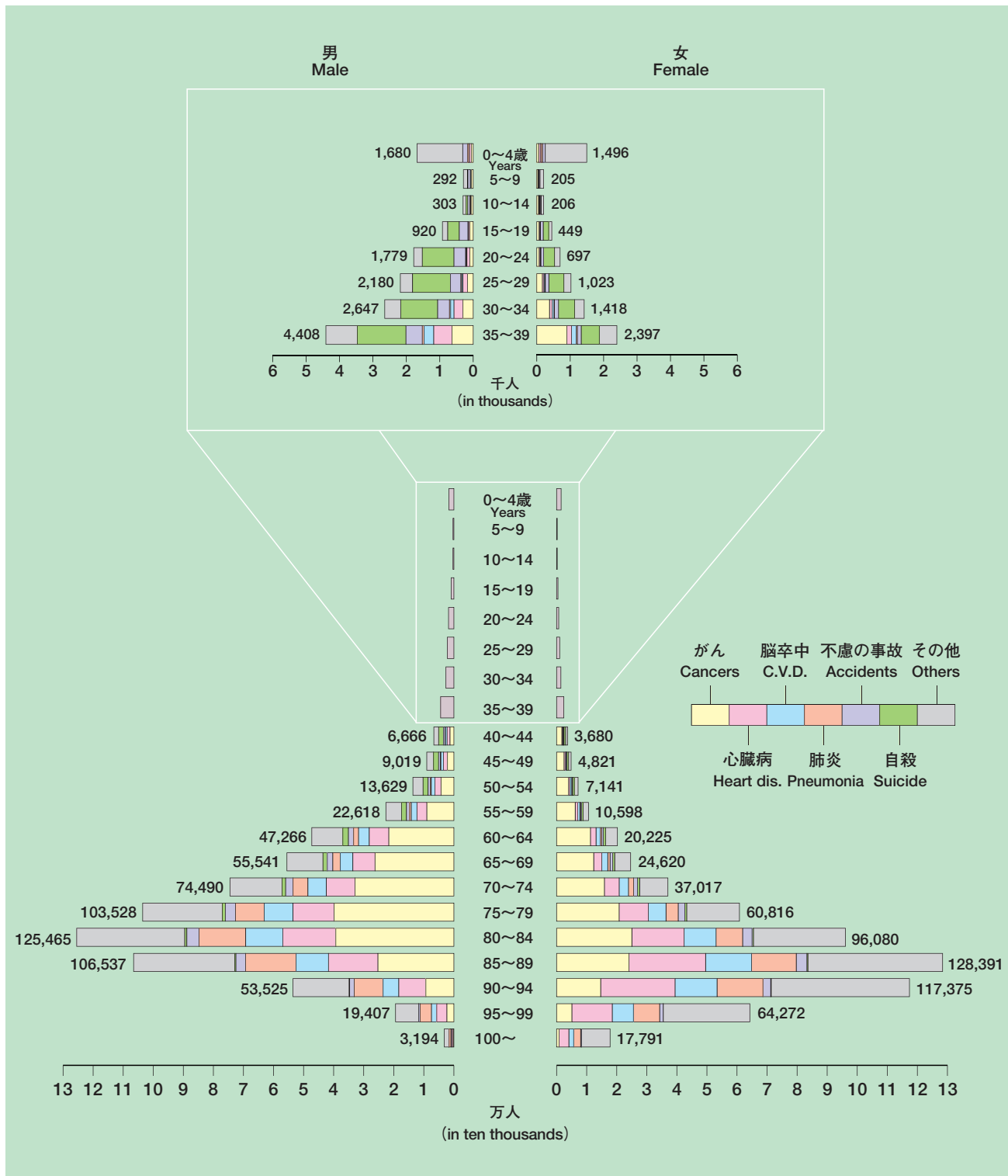
平成24年の女のがんの死亡数は14万5853人、死亡率（女性人口10万対）は225.7である。

部位別に死亡率の年次推移をみると、一貫して上昇を続けていた大腸がんは、平成15年に胃がんを抜き、以降第1位となった。19年には、同様に上昇を続けていた肺がんも胃がんを抜いた。

膵がん、乳がんは上昇傾向にあり、また、子宮がんも近年緩やかな上昇傾向にある。

青年層では不慮の事故と自殺が多く、中高年層ではがんが多い

性・年齢階級別にみた主な死因の死亡数—平成24年—  
Deaths from leading causes by sex and age groups, 2012



注：C.V.D. ← Cerebrovascular diseases

平成24年の性・年齢階級別の死亡数を主な死因別にみると、男女とも10歳代、20歳代では、不慮の事故及び自殺が多くなっている。50歳代、60歳代、70歳代では、がんが多くなり、80歳代以降は心臓病、脳卒中、肺炎が多くなっている。